

秋風の爽やかさが実感できる候になりましたね。皆様、お変わりございませんか？ 当方も相変わらず(そこそこ)元気で、機を見てあちこち出歩き、何やかや見つけては写真に撮り、ひとりで愉しんでいます。

先日、大学時代の寮仲間との久しぶりの会合で近況報告をさせられた時、この ATGG の話をしたらみんな面白がってくれました。そこで考えついたのがこの ATGG の新訳語。もともとの ATGG はご承知の通り「AT(エイティ=80) 近くの GG(ジジイ)」の意味だったのですが、新訳語は「A(歩いて)T(撮って)G(元気な)G(ジジイ)」と言うんです。これも、好いよねっ！

と、そんなでいつものように、最近撮った写真の中から、気に入ったものをご紹介します。



一番バッターはやっぱりチョウ。これは9月の前半、いつもやってる地下鉄路線アルキの一環で中央区の月島から新宿まで歩いた時、途中の芝公園で見かけたものです。このチョウ、ヒメアカタテハ。撮った時はアカタテハとばかり思ってたんですが、帰宅してコピーしたら気がつきました。アカタテハは後翅の中央部に模様がないのが区別点です。昔はアカタテハの方が圧倒的に数は多かったけれど最近ではヒメアカの方が数の上では優勢のようです。止まっているのはアオバナフジバカマなるキク科の栽培種です。



二番手はこれまたチョウの話題。先月号(No.6)でアカボシゴマダラの幼虫をご覧に入れましたが、今回はその成虫。先に述べた、大学時代の寮仲間とのお付き合いの日に少し早めに会場場所へ出かけ、近くの駒場野公園を散策してたら見つけました。公園の池の傍の岩の上で、どうやら給水してる感じです。かなり落ち着いているので、そうっと手を出して捕まえようとトライしましたが、ダメでした、残念。このアカボシゴマダラ、春型は白っぽいのが特徴で、この「カエルの会」の文集でも、臼杵さんが「妖蝶」と称して書いておられます。



続いては植物。これも挙げ出すと切りがありませんが、つい 10 日ほど前、近所の自然教育園へ散歩に出かけた時、園内にある路傍植物園の一角に咲いていた、ヤマホトギスを紹介しましょう。これはユリ科ホトギス属で、ホトギス、ヤマジノホトギス、タマガワホトギス、セトウチホトギスなどなど、いろんなよく似た種類があります。私としてはホトギス類はルリタテハの食草と言うことで親しみが湧きます。でも、そうそう簡単に幼虫は見つかりませんでした。



ラストバッターは・・・、なんだか判る？ これ又つい最近の地下鉄路線アルキで渋谷から清澄白河まで歩いた途中、大手町駅近くの神田橋公園の一角に鎮座(?)ましましてた像です。一見、なんだかよく判らないと思いますが、解説によればこの「豊展観守像(とよてんかんしゅぞう)」なる像は、コガネムシを人に見立てて、コガネムシの子育て上手にあやかるべく、1991年に建てられたものらしいです。なるほど、「コガネムシは金持ちだ～、・・・こどもに水飴舐めさせた～」か。でも、コガネムシって、ホントに子育て上手なのかね？

という所で、今月の Photo World はお終い。また来月、お目にかかりましょう。それまで、どうか、お元気で・・・。ATGG へのお便りはこちらへどうぞ。 haradah@rapid.ocn.ne.jp